

CBC NEWS LETTER

Vol.7, No.2, Mar.2007



国立大学法人
小樽商科大学ビジネス創造センター

ニューズレター [Vol.7, No.2]

INDEX

1. 学生研究奨励事業「学生論文賞」
2. 学生研究奨励事業「学生論文賞」 審査結果及び講評
3. 平成18年度小樽商科大学地域活性化セミナーを開催
4. 産学官連携イノベーションフェアin北海道2006に参加
5. 平成18年度産学連携研究成果報告会を開催
6. CBC主要日誌
7. 投稿案内

1

学生研究奨励事業「学生論文賞」

CBCが前身の経済研究所時代より主催して行ってきた「学生懸賞論文」は、近年応募数が減少傾向にあり、また応募者の所属学科(コース)にも偏りが見られるようになってきました。このような状況に対して「学生懸賞論文」の全学的な認知度が決して高いものではなくなってきているのではないかと、という問題意識が、関係教員の間にも共有されるようになりました。そこで、自主的な学習意欲の向上を図り、学生の認知度の向上と審査の公平性・透明性の向上を図ることを目的に、教育開発センターとの共催により「学生懸賞論文」を「学生研究奨励事業「学生論文賞」」として実施することにしました。

教育開発センターと共催することによって本事業が本学の教育の一翼を担うものであることを広く周知させることができます。また、より多くの教員が審査に参加する契機にもなります。

本事業の審査方式は2段階方式を採用しており、1次審査はプレゼンテーション方式によるもので、審査員全員による公開方式の審査を行いました。本審査では、会場を公開し、応募者以外の学生が参観可能としました。研究内容の発表機会を設けることで、彼等の学習・研究への動機付けに繋がることが期待できます。また1次審査における優れたプレゼンテーションには「ベスト・プレゼン賞」が与えられています。そして2次審査は、1次審査を通過した論文について審査員2名によって行なわれました。「学生懸賞論文」と同様の審査スタイルである2次審査に、異なるスタイルの1次審査を組み合わせることで、審査基準の平準化を目指しました。

また「学生論文賞」では、1次審査・2次審査の結果・講評を、応募者それぞれに返却しています。評価のポイントが応募者に開示されることで、研究水準の向上が期待できます。「学生論文賞」では、表彰の在り方にも変更を行なっています。「学生懸賞論文」では表彰はCBC内においてCBCセンター長によって行われていましたが、本事業では学生表彰の一環として学位記授与式内において学長より表彰されることになりました。

このような変更を経て昨年10月23日から27日の間をエントリー期間として募集を行ったところ学部大学院生あわせて37編の応募がありました。11月7日から9日にかけて1次審査のプレゼンテーションを行い、これを通過した29編の論文について12月中旬から1月19日までの期間で2次審査を行い大賞1編、優秀賞2編、佳作4編、奨励賞17編を決定しました。3月19日の学位記授与式において、大賞受賞者が代表して学長より表彰されました。(入賞者につきましては、2頁の表を御覧下さい。)



学長室での表彰式



学位記授与式にて表彰される大賞の井原さん

2

学生研究奨励事業「学生論文賞」審査結果及び講評

「学生論文賞」の第1回目である今年度は、学部生部門に35編、院生部門に2編の、合計37編の応募がありました。昨年と比べて倍近い応募となっております。またここ数年の応募状況と比較しても、多数の応募がありました。学部生部門での応募者は、3・4年生のみでした。所属に関しては、商学科が過半数を占めていますが、経済学科、企業法学科、社会情報学科からの応募も増加しています。研究テーマとしては文学・言語も含まれ、本学らしく多岐に渡っているといえます。

2段階の厳正な審査の結果、下表のように院生部門では、佳作1編が入賞し、学生部門では、大賞1編、優秀賞2編、佳作3編、奨励賞17編の入賞となりました。審査が2段階方式になった結果、第2次審査の対象となった論文は、形式面での不備を指摘されるものが殆んどありませんでした。第1次審査が行われたことも、論文水準の向上に繋がったと考えられます。

上位入賞者の論文は、特に第2次審査において査読担当者から高評価を得ている傾向があります。奨励賞の論文に比べて、方法論の妥当性、論理構成の確実さなどの点で優れていたようです。奨励賞の該当論文は、先行研究のサーベイ不足、論理構成の弱さが指摘されているものがあります。また幾つかの論文では、ユニークな着眼点を示したものの検証が十分でないため、思いつきに留まる客観性に欠けている等の指摘がありました。高い水準を目指す学生諸君には、応募にあたり、論文作成の基本的な作法のほか、テーマのユニークさを客観的・一般的な水準に高めるための「学術的な裏づけ」も修得されることを望みます。

賞	氏名	テーマ
大賞	井原香織	零細小売商のエスノグラフィー —鮮魚店の存立基盤に関する考察—
優秀賞	前田容子	女性労働者に対する意識と制度の変化 ～ダイバーシティ・マネジメントという考え方～
	中 祐規, 松本美沙	国債ポートフォリオのリスク管理
佳作	小川 亮	想像力を持ったCSR人材の必要性
	小林沙織, 上田真友子 児玉 結, 谷口亮介	4つの立場から見る観光問題の本質～小樽市の事例をもとに～
	阿部さとみ	オーケストラに学ぶプロフェッショナル組織におけるリーダーシップ
	大友奈奈子(大学院生)	Effective English Teaching in Elementary Schools
奨励賞	高山博貴	大学におけるeラーニングシステム構築の可能性
	吉田友弘	動的筋力トレーニングにおけるレペティション法の改善
	佐藤正典, 杉山友紀, 松田 大	仮説検証型発注システムの弱点 —セブンイレブンを事例として—
	森 浩輝, 大瀬麻巴, 花田優貴, 平岡 卓	踊る報酬 ～人はなぜYOSAKOIソーラン祭りで踊るのか～
	屋敷美奈, 坂井香織, 渡辺彩織	グッズ販売事業を素材とした広報活動の重要性
	萱森美緒, 折田寛枝, 今 亮人, 土谷咲恵	ポイントカード戦略による大通駅エリアの活性化
	高田禎久	ロングテール分析とその活用
	中島 啓, 菅野有記	エキゾチックオプション組み込み債権の収益性
	藤原佑輔	刑法における公務の保護
	岸 藍子	緑陰の形成に着目した街路樹配置に関する研究
	北村知子, 浅野啓太, 庄野幹也, 堀田久実子	地球に優しい3R ～資源枯渇への対策とその心構え～
	山本あみ	携帯電話における効率的な文字入力方式の検討
	筒井由香理	携帯電話を利用したATM利用時間の短縮
	小路奈美絵	サービス業におけるマニュアル経営の実態～定食屋チェーンA店の事例～
	山本絢子, 佐々木俊介, 中西未来	福住地区高齢化の理由とこれからのまちづくり ～高齢者にとっての福住の魅力とは～
	小笠原義人, 鈴木悠斗, 羽田野敬一, 金 台姫	バイオエタノールの可能性と経済効果
	林 襟奈, 太田晋平, 笹原俊介, 宮下美弥江	ウイングベイ再・再建!!

3

平成18年度小樽商科大学地域活性化セミナーを開催

9月29日(金)に紀伊國屋書店札幌店のインナーガーデンを会場にして地域活性化セミナーを開催しました。同時に札幌サテライト前では小樽のガラス工芸品と藍織物の特別展示も行いました。事前申込みなしのオープンなセミナーでしたが、当日は80名あまりの参加者がありました。

本セミナーの開催は、大学と芸術工房、大学のセンセイと工芸作家、この何のつながりもないように見える不思議な組み合わせから、地域を元気にするしかけが生まれ始めていることが契機になっています。大学が地域のためにできること、市民や地元企業が大学を上手に活用する方法について、小樽を拠点にして世界的に活躍する二人の工芸作家をお招きして、セミナー参加者とともに考えることを目的として開催しました。当日のプログラムは次のようです。

【プログラム】午後6:00～

主催者挨拶

山本 眞樹夫(小樽商科大学副学長・地域貢献推進委員会委員長)

第一部 講演

・小樽ガラス工芸

「OTARU ガラス工芸品の世界ブランド化プロジェクト」

海老名 誠(小樽商科大学教授・ビジネス創造センター長)

「小樽ガラス工芸品の魅力」

安井 顕太(有限会社 ケーズブローイング代表取締役)

・染織造形

「北海道の染料植物と環境を考えた染織法」

角 寿子(北の藍工房 主宰)

片岡 正光(小樽商科大学教授・ビジネス創造センター運営会議委員)

第二部 パネルディスカッション

・「大学は本当に役に立つ？」

モデレータ 大津 晶(小樽商科大学助教授・ビジネス創造センター副センター長)

パネリスト 安井 顕太, 角 寿子, 海老名 誠, 片岡 正光

閉会挨拶

海老名 誠(小樽商科大学教授・ビジネス創造センター長)



パネルディスカッションの様子

4

産学官連携イノベーションフェアin北海道2006に参加

11月9日(木)から10日(金)の2日間、「産学官連携イノベーションフェアin北海道2006」に出展しました。

このフェアは、北海道・東北地区の大学、技術移転機関が、大学が創出した研究成果や知的財産の展示、産学官連携の新しい取り組みの紹介等を行い、来場者との新しい接点を見出す場を提供するものです。

CBCでは、札幌医科大学、北海道東海大学とそれぞれ締結した包括協定について、また「ユーザビリティ・ラボ」のパネル紹介、大学紹介ビデオの上映を行いました。

センター長以下延べ7名のCBCスタッフがブースにおいて来場者への説明を行い、例年以上の来場者がありました。



佐野文科省研究振興局研究環境・産業連携課長にCBCブースの紹介をする大津副センター長

5

平成18年度産学連携研究成果報告会を開催

3月2日(金)に札幌サテライト大講義室にて恒例の「小樽商科大学ビジネス創造センター産学連携研究成果報告会」を開催しました。会場は約50名の参加者でほぼ満席となり、熱気あふれる報告会となりました。報告の内容は以下のとおりです。

第1報告 「ユーザビリティ活動の発信拠点を目指して」

報告者:葛西 秀昭氏(北海道日本電気ソフトウェア株式会社・ソフトウェア開発事業部ユーザビリティ推進マネージャー)

平沢 尚毅(小樽商科大学社会情報学科・助教授)

第2報告 「小樽観光大学校の設立」

報告者:海老名 誠(小樽商科大学ビジネス創造センター長・教授)

第3報告 「企業再生の現状と課題:再生事例からの教訓」

報告者:田浦 一史(小樽商科大学ビジネス創造センター北洋銀行企業再生寄附研究部門・客員教授)

旗本 智之(小樽商科大学ビジネス創造センター北洋銀行企業再生寄附研究部門・助教授(併任)／小樽商科大学大学院商学研究科アントレプレナーシップ専攻・助教授)



6

CBC主要日誌

CBC運営委員会		主任会議
第8回 10月30日(月)	審議: 1. 「学生論文賞」の通称募集および実施組織について 2. 年度計画中間報告書の提出について 報告: 10件	10月16日(月)
第9回 11月 1日(水)	(持ち回り) 審議: ベスト・プレゼン賞の「投票用紙」(案)について 報告: なし	
第10回 11月27日(月)	審議: なし 報告: 5件	11月13日(月)
第11回 12月25日(月)	審議: なし 報告: 8件	12月11日(月)
第12回 1月29日(月)	審議: 1. 平成18年度年度計画の進捗状況報告(案)と平成19年度年度計画(案)について 2. 平成19年度科目別経費予算要求(案)について 報告: 4件	1月15日(月)
第13回 2月26日(月)	(持ち回り) 審議: なし 報告: 3件	2月 5日(月)
第14回 3月 7日(水)	(持ち回り) 審議: 1. ビジネス創造センター規程の一部改正(案)について 2. ユーザーエクスペリエンス研究部門規程(案)について 報告: なし	3月 6日(火)
第15回 3月26日(月)	(持ち回り) 審議: 1. CBC研究部主任の交代について 2. 平成19年度「知的財産活用調査分析」事業の受入れについて 3. 平成19年度CBC学外協力スタッフの委嘱について 4. 「ビジネス創造センター規程」の一部改正について 報告: 5件	

7

投稿案内

ニュースレターはCBCに関する情報をタイムリーに開示するだけでなく、CBC関係者相互の情報交換の場でもあります。CBC関係各位の積極的な投稿をお待ちしています。

投稿、問い合わせはEメールにてお願いします。投稿は随時受け付けておりますが、投稿原稿の採否、掲載号の決定はCBC情報資料部に御一任ください。

○ 投稿先 小樽商科大学ビジネス創造センター情報資料部(奥田和重)

Eメール: okuda@res.otaru-uc.ac.jp

編集後記

このたび小樽商科大学ビジネス創造センター(CBC)のニュースレターVol.7, No.2を発行することができました。これも関係各機関・各位のご協力の賜であります。より充実したニュースレターにするために、今後ともみなさまのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

(情報資料部)

国立大学法人

小樽商科大学ビジネス創造センター (CBC)

〒047-8501 小樽市緑3丁目5番21号

事務室 TEL 0134-27-5290

FAX 0134-27-5293

メールアドレス cbcjimu@office.otaru-uc.ac.jp